

けやき歯科診療所通信（令和元年7月）

今回は、本年4月から月1日診療を担当していただいている東京医科歯科大学の
歯科麻酔科教授の深山治久先生と 週2日診療を担当されている小林淳子先生の
ご紹介（インタビュー）を掲載します。



——深山先生にお聞きします けやき歯科で診療されてみて ご感想は？

「実は大学院生のころ（1983年）早稲田時代のけやき診療所に麻酔をかけに伺っていました。その時
と今も変わらないのは「家庭的な雰囲気」です。奥村所長が築かれたポリシーが息づいている
と感じました。患者さんとご家族はそれを体感して、信頼を寄せていると思います。」

——障害者の歯科診療に従事する方で 麻酔科の出身の方は多いですか？

「普通に診療が受けられない患者さんには、行動調整法として全身麻酔や静脈内鎮静法をすることがあり、その関係で麻酔科出身の歯科医師が多く従事していると思います」

——障害者の歯科治療で大切なポイントはどんなことでしょうか

「患者さんをよく診ることだと思います。診療を始める前に全身の状態、今まで罹った病気やアレルギー、障害の程度やその経過、飲んでる薬、体重・身長、血液の検査結果などを詳しく調べます。そして血圧・脈拍・呼吸数・体温を測ったり、場合によっては聴診器で心臓や肺の音を聞いたりします。心電図や胸のレントゲン写真を眺めることもあります。安全で能率よく診療を行うための準備がとても重要です。」

——先生のご趣味はなんですか？

「読書と音楽鑑賞という通り一遍ですね。自転車とランニングです。自宅の阿佐ヶ谷から御茶ノ水の大学まで自転車通勤しています。海外も含め学会などの出張でもウェアとシューズをもって早朝走りますが、その街の気候だけでなく、匂いがわかります。」

——小林先生にお聞きします。けやき診療所で診療されてどれぐらいになりますか

「今年で12年目になります。私は、小児歯科専門医と歯科麻酔認定医の資格を持って診療に当たっています。けやき歯科では、火曜日の午前は歯科診療。木曜日は午前午後 週により歯科診療又は麻酔を担当しています。」



——障害者の診療で、難しい点や 留意されていることはなんですか

「患者様本人からの訴えによる情報が少ないこと。また時に想像を超えた反応があることで、日々その難しさを痛感しています。一人一人 行動などの特徴も様々のため、事故のないよう注意を払い、安全第一で行きたいと決意しています。」

——仕事以外の余暇時間はどのようにお過ごしですか

「『キングダム』にハマっています。今年公開された実写版映画も2回見に行きました。他に少しですが 茶道、着付け、金継ぎを習っています。」

——これからのけやき歯科に望むことはなんでしょうか

「日々悩みながらの診療ですが、諸先生方やスタッフの皆様を相談しながら、より良い医療を提供できるように精進してまいります。」

